

「信州挨拶運動」街頭啓発活動

7月1日(水)の朝、立科町教育委員会の呼びかけで昇降口前にて「信州挨拶運動」街頭啓発活動を行いました。町教委からお二人がお見えになり、私とT先生と校用技師のHさんのオリジナルメンバーを加え、5人で元気に



「おはようございます!」「テストがんばれー」など登校生徒へ声を投げかけました。しかし、明るい声で挨拶を返す人が多い中に、普段より挨拶しないどころか全く無視し素通りする人がいます。

「いつもと比べ今日は機嫌が悪いね」と私がT先生に話したら、「緊張しているんですよ」と。

見まわして納得。5人の大人が幟旗にタスキ掛けの恰好で暑苦しく迫る姿を想像したら、私もドン引きするでしょう。無神経な私に比べ、生徒を見る目が確かなルーキーT先生に頭が下がりました。

3年生 進路に向け発進! ~ 証明写真撮影というイニシエーション ~

けさの挨拶運動で気になったのが、3年男子生徒が手に手にスーツカバーを持っていることでした。訊いてみると、テスト後に出願用証明写真を撮影するためであることが判明。求人票も公開され、いよいよ就職も本番です。さて、現場に行ってみたらどうでしょう、朝の学生然とした姿と比べ、彼らのこの凛々しさ。未来の社会人たちのエネルギーを感じました。⇒



さて、話は変わりますが、人間の一生とは生物学的な自然現象でいえば、細胞が分裂し成長・老化・消滅の連続にすぎません。しかし人間は自分の一生に意義を見出す動物です。例えば太古の昔から人間は、より多くの獲物を仕留めるためにはどうすればよいかとか理想や目標の実現を念頭に置き、皆と協力し計画・実行して発展してきました。また、連続する命の中にも節目を決めて、社会集団としての秩序を保ってきました。成人式などの通過儀礼がこれにあたります。このように、本当は形のない一生に理想や目標や節目といった形(意義)を与えて、それが実在するかのようにふるまい、未来を切り開いてきたのです。証明写真撮影は、本校にとって成人式的な意義があると感じました。

よく「外見ではなく内面を鍛えることが肝心」だといいます。

しかし「形から入ってそれにふさわしくなるように努力する」ことも彼らを見て大切だと感じました。

困ったお話(その3) このキノコ、なんだっけ?

事務長さんが、正面玄関横に生えていたとキノコを持ってこられた。『なんですとお』きのこマニアの血がうずく。イグチ科のキノコだが、生えている場所を見ないと特定できない。外に出て、アカマツのそばの草地を見たら、いくつも重なって生えている。これは少年時代、駒ヶ根市の実家で「アマタケ」とともによく採った雑キノコだと分かったが、名前が思い出せない。その他大勢の雑キノコとともにキノコ汁にして食べていたのは確かだ。たしか「アワタケ」だったか。判別に困った。



しかし、単体で食べたことが無かったので、住宅に持ち帰り食べてみようと思った。私は、イグチ科のキノコの中ではヤマドリタケ(ポルティエノ)が最高だと思っている。その調理方法をまねて、ワインをふりかけ、バターソテーにして食べてみた。さて、お味は? 香りなし、味わいなし、歯ごたえは麩のようでべちゃべちゃ。うまくない、ではなくてはっきり不味い。図鑑で調べたら「チチアワタケ」で、過食は中毒するとのこと。皆さんは絶対真似しないでね!

